

「日本の宝である青少年に明るい未来を」 ～そのために産婦人科医としてできる事～

松波病院院長（岐阜県産婦人科医会 会長）
松波 和寿

私ども産婦人科医師達は、最近少子化が問題視されるずっと以前から、「女性が健康ですこやかに成長し、将来結婚し、健やかな赤ん坊を授かるために、男女共に、最小限の自分の身体の仕組みを基礎知識として知っておかなければならない。」と考えており、そのために「産婦人科専門医による自分の身体の事を正しく理解する講義を受けてもらいたい。」と思っております。特に、最近問題視されている少子化の解決の一貫としても、こうした知識を持つことは、不可欠であると考えております。

これまで、日本産婦人科医会の母子保健委員会を中心に、そしてその下部組織としての県産婦人科医会の有志達が、自院の近隣の中学校、高校に性教育出前講座を行ない、日本産婦人科医会では、年に一回全国教育セミナーを開催し、産婦人科専門医達の性教育講義の内容の充実を図ってきております。

しかし、一人一人、個々の先生方で全ての公立校に出向くのは限界があり、何とか行政のお力を借りて、即ち教育委員会の方々と共に行なう産婦人科専門医による出前講座事業をと思っておりましたが、幸い、既に岐阜市産婦人科医会が12年前より、元県産婦人科医会長の岩砂真一先生や宮崎千恵先生、そしてその他の多くの有志が、こうした取り組み行ない、良い成果を出しておられました。

そこで岐阜県全体の公立高校にも同様のシステムを構築したいと、当会でも、宮崎千恵先生を中心に性教育委員会を作り、県内5地区の30人の先生方のご協力を得て、3年前より、岐阜県教育委員会の大変なご協力を得て、県内60校の公立高校全てに出前講座を行なう事業を構築し、岐阜県産婦人科医会の会員の有志が、自院の近隣、又は一部は僻地にも足を運んで、地元や僻地の子供達に「自分の身体の仕組みを正しく理解する」授業を行なっており、1年に20校そして、昨年12月に60校全ての高校の講義を終了いたしました。

この事業は今後もずっと継続し、県内の高校生が3年間の授業の中でせめて一回だけでも自分の身体の仕組みの正しい知識を理解した若者として、社会に送り出したいと考えております。

その内容は、委員会で検討した結果、以下の内容を基本的に行なっております。

- 1) 氾濫したネットなどからの誤った情報や知識のみを信じた結果、中絶の可能な期間の間違った知識 → 望まない妊娠 → 虐待、殺人、ネグレクト等の防止
- 2) 近年急増している不妊治療の増加の大きな理由には、卵子の寿命や、出産適齢期の正しい知識の欠如・その時期の期限の限界、体外受精で生まれた赤ん坊達の生命力の弱さ、その体外受精で生まれた子供達のメンタルケア・身体的ハンディキャップ
- 3) 子宮頸がんを含む性感染症の恐ろしさ、その予防に大切な子宮頸がんワクチン接種の重要性。
- 4) 激しいスポーツなどによる健康被害の防止策
- 5) 性犯罪などを受けたときの迅速な対応（ワンストップ支援センターの周知）
- 6) 一方で一番大事なものは、生命の大切さで、母体の中にいる胎児の神聖なDVDなどを見せたりすると、生徒達は大変感動しております。

こうした内容は高校の担任教師、体育の教師、養護教員の方々では、具体的な内容を教えるのはハードルが高く、専門医であるからこそ教えられる事だと思います。

少子高齢化が進む中、既に高校生にまで成長した、日本の宝とも言える生徒達が、すくすくと心身共に健全に成長し、岐阜県から全国に羽ばたいてもらいたい、その一旦を少しでも私たち産婦人科医達がお手伝いできればと考えております。

どうか関連各位様にも、よろしくご協力くださいませ。